

第115号/ ふじのくに静岡県



消防学校 ニュース



令和3年3月号



FDMA・SHIZUOKA

The 30th EMS Course

静岡県消防学校専科教育救急科（第30期）後編

即戦力の救急隊員を目指して

様々な専門分野の方々から、救急隊員として必要となる高度で専門的な知識と技術を学び、3月4日（木）をもって救急科第30期は無事に修了し、114人の新たな救急隊員が誕生しました。救急科の後編は実習が多く、今まで学んだ解剖生理・病態把握の知識を活用し、傷病者の病態をいかに予測して活動できるかが重要です。感染対策に工夫しながらの実習でしたが、充実した訓練が実施できました。その中で、実践的大規模災害対応講習と合同で実施した多数傷病者対応訓練、外因性（JPTEC）・内因性のシミュレーションの一部を紹介します。



多数傷病者対応訓練

内因性シミュレーション訓練

観察

評価

判断

処置

初期評価・全身観察・状況評価
のなかで評価し・・・

Load and Go を判断

外因性シミュレーション訓練 (JPTEC)

担当教官から一言

近年は救急救命士だけでなく救急隊員の生涯教育が課題となっています。この課程を修了したことが救急隊員のスタートであり、常に自己研鑽に励んで頂きたいです。皆さんの「知識」と「技術」のさらなる習得、そして「向上心」が多くの市民の生命・身体・財産を守ることに繋がることと思います。そして、誰よりも優しい救急隊員を目指してください。皆さんの今後の飛躍に期待いたします。教務課 主査 森下 善弘（御前崎市消防本部より派遣）

消防職員特別教育実践的大規模災害対応講習(第3回)

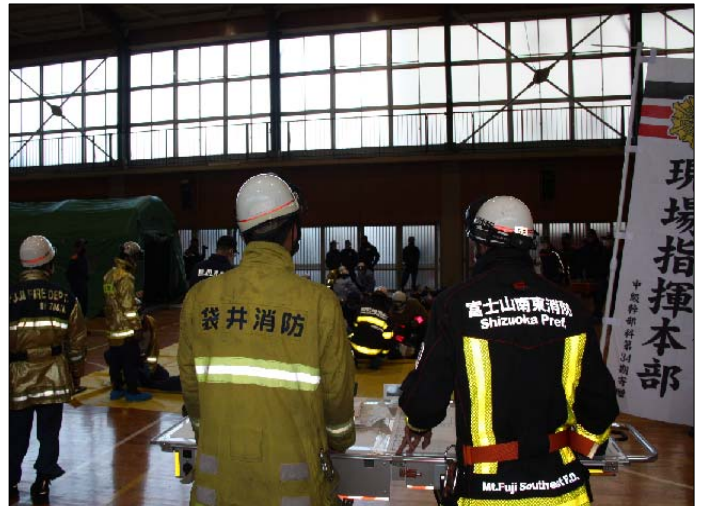
2月16日(火)～2月18日(木)の3日間、実践的大規模災害対応講習を開催し県内の消防本部(局)から20人が参加しました。

大規模化、複雑多様化の傾向にある自然災害や、近年危惧されている大規模イベントをターゲットにしたテロ災害等への迅速・的確な対応など、現在の消防業務において各種災害対応能力の向上を図ることが急務であると考え、平成30年度に実践的大規模災害対応講習を創設しました。

(担当教官から)

今年度の実践的大規模災害対応講習は、昨年9月に開催されたラグビーワールドカップや来年度開催予定の東京オリパラなど、世界的イベントが日本で開催されるなかで、大規模イベントにおけるテロ災害対策及び多数傷病者対応に重点を置いた講習を実施しました。同時期に入校中の救急科学生との合同訓練では、活動隊、消防本部、関係者、30人の要救助者等を全て学生が対応することにより、活動隊管理、指揮運用及び訓練運営の重要性を学びました。本講習で培った知識、技術を各所属へ落とし込み、災害対応力の向上に努めていただきたいと思います。

教務課主査 鈴木 啓介 (静岡市消防局より派遣)



消防職員専科教育火災調査科（第45期）



火災調査科第45期は、3月8日（月）から2週にわたり教育訓練が行なわれました。入校した57人は熱心に受講し、3月19日（金）に修了式を迎え、本年度の本校における教育訓練を見事に締め括ってくれました。

今回の入校生57人のうち、消防職員は42人（16消防本部）で、残りの15人は警察職員（静岡県警察本部）です。この火災調査科は、平成25年度から警察職員を受け入れ、合同研修という形で実施しています。消防の「調査」と警察の「捜査」は目的が違いますが、火災原因を究明し、ともに安心・安全なまちづくりを目指すことに変わりはありません。

（担当教官から）

専科教育で知識と調査技術を習得するのはもちろんのこと、消防職員と警察職員が共に寮生活をして教育訓練を受けるなかで、お互いに意見交換をして共通認識を持ち、信頼関係を築いて今後の合同調査に活かしてほしいという思いでいました。鑑識演習では、警察職員の学生が消防職員の学生に鑑識要領を教える姿も見られ、積極的な交流が行われていたことを嬉しく思いました。

専科教育で学んだことを所属の同僚に伝承し、消防職員と警察職員が良好な関係で火災調査が円滑に行われることを願っております。

教務課主査 埴淵 茂樹（浜松市消防局より派遣）



消防団員特別教育災害対策講習(第17回)

2月21日(日)に災害対策講習を開催しました。当日は県内の消防団員28人が参加し、災害対策の肝となる「防災」と「減災」について理解を深めてもらいました。

講習では、発災時の避難行動と平時からの備えに関する講義(講師:弁護士・防災士 永野海先生)や、小型無人機(ドローン)操作訓練、START法トリアージの基礎研修を実施し、災害時の活動を学習しました。

(担当教官から)

元来、危機意識の高い団員の方々ですが、2月13日に発生した福島県沖地震の直後ということもあり、災害に対する知識を得ようと真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

本講習が各地の消防団活動の一助となれば幸いです。

教務課主任 谷澤 俊光(県職員)



消防団員幹部教育指揮幹部科分団指揮課程(第6期)

3月6日(土)～7日(日)に指揮幹部科分団指揮課程を開催し、県内の消防団からリーダーとしての役割を担う25人が参加しました。

消防団の日頃の管理運営及び活性化に向けた広い知識を習得すること、そして、各種災害発生時に効果的な現場活動ができるよう、座学やシミュレーション訓練を実施しました。

(担当教官から)

コロナ禍での教育訓練ということもあり、例年に比べ少ない出席者でしたが、その分活発な意見交換が行われ、座学や訓練にも意欲的に取り組まれており、幹部職員としてのモチベーションの高さがうかがえました。今回学んだ新たな知識やディスカッションした内容について、各消防団に持ち帰ってフィードバックしていただき、消防団の活性化、ひいては地域防災力の強化に努めていただきたいと思います。

教務課主任 土屋 裕一(県職員)



シミュレーション訓練



講義



グループディスカッション

消大レポート 消防大学校幹部科（第64期）

令和3年1月7日（木）から2月25日（木）まで消防大学校幹部科（第64期）に入校させていただきました。入校日に緊急事態宣言が発令され、外出等が規制される中での学校生活となりましたが、全国各地から入校した53人の同期生と座学や訓練に取り組んできました。

座学では消防行政、消防法務、危機管理、人事管理、安全管理、ハラスメント対策、メンタルヘルス、人権、議会対応、報道対応、部下指導など様々な講義を受講し、訓練では、消防団や緊援隊との連携を想定した指揮訓練や多数傷病者対応指揮訓練、実火災体験型訓練を実施しました。

これらの座学や訓練で、幹部職員はどうあるべきかのイメージが描け、それに向けて今後この幹部科で学んだことを基にさらに勉強し知識を深め、実践することを心掛けていくとともに、同期生との繋がりを大切にして情報交換を行い、消防学校の教育訓練等に少しでも役立てることができればと思います。

教務課 主査 飯塚 幸代（御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣）



入校式



実火災体験型訓練



シミュレーション指揮訓練



グループワーク



現場指揮訓練



卒業式を終えて



消大レポート

消防大学校 予防科 第109期

令和3年1月6日～2月26日の約2か月間、消防大学校（東京都調布市）における専科教育予防科（第109期）に入校し教育訓練を受けました。新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言中での教育でしたが、全国から入校した40人の仲間と共に無事に卒業することができました。



消防大学校予防科では、予防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に習得させ、予防業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的とした教育訓練を実施しており、座学では最新の予防行政の動向、法制、燃焼理論、査察・違反処理、教育技法、報道対応及び講義演習等を学びました。



課題研究



違反処理演習（シミュレーション）



座学以外では、違反処理対策として違反の現認から命令発動・最終段階での告発書作成まで演習を行いました。視察研修は、火災時に消防用設備が作動する様子を実際に見学し、今後の訓練指導や消防用設備の設置指導において説得力のある指導に自信が持てる有意義な研修でした。また、課題研究では各班により「予防行政の現状と課題」について、たくさんの課題、改善策及び取組みが発表されました。予防行政の推進は、国民や災害現場で活動する仲間たちを守ることを再認識しました。

消防大学校でのカリキュラム全てにおいて多くの気づきを得ることができ、今後の消防学校教育や所属に還元するとともに、今後の消防人生に活かしていきたいと思えます。

なお、第109期の109という数字は、全ての学科やコースの中で最大であり、「予防科」の歴史の深さが伺えます。

教務課 主査 早川 淳（磐田市消防本部から派遣）



予防広報
住宅用火災警報器
設置義務化から令和3年6月で
10年経過です！



退任教官表彰状授与式

3年間、ありがとうございました

令和3年3月25日（木）退任教官表彰状授与式が行なわれました。県内の消防職員や消防団員等の指導育成のため尽力した学校教官に対し、学校長から表彰状が授与されました。

退任教官の皆様、3年間、本当にありがとうございました。派遣業務という普段とは異なる環境の中、県内の消防力向上のため、また本校の教育訓練向上のために常に全力で、そして真摯に取り組んでいただきましたことを感謝いたします。

帰任先の消防本部では、消防学校での経験を生かして頑張ってください。皆様の御健勝をお祈り申し上げます。



右から

岡寄 和臣 教官

（志太消防本部から派遣）

鈴木 啓介 教官

（静岡市消防局から派遣）

丸子 修平 教官

（富士山南東消防本部から派遣）

お疲れ様でした！



常葉大学造形学部 to 感謝状贈呈

静岡県消防学校では、令和3年3月4日（木）、常葉大学造形学部に対し感謝状を贈呈しました。

同大学は、初任科及び火災調査科で使用する模擬家屋の設計、製作を行い、本校の教育訓練に不可欠な、実践的な教育訓練ができる環境整備に貢献されました。

また、当模擬家屋の製作は大学生にとっても大変良い経験になっているとの声をいただいていることから、同じ教育機関として今後も連携を促進してまいります。



学校長から表彰状授与



常葉大学の皆さんと教官で記念撮影です

最後の 塩崎ぜつ校長

ワンチョット(チョイネタ)

コーナー 今月のつぶやき

定年退職の御挨拶

この3月を持って、定年退職する。関係者へ退職の挨拶をした時、相手から「おめでとうございます」との言葉を頂いた。あっそうか、仕事を何十年も勤め上げ、この日を迎えられることは、めでたいことなのだ。確かに、この歳まで生きてこられたことの証が、定年退職なのだ。そう考えれば、自然のことかもしれない。やはり、寂しさもあるが、言い知れぬ開放感や安心感があるのも事実で、不思議な心境である。先輩達は、皆、通ってきた道で、味わった感覚であろう。新年度も社会や人々の生活も何も変わらず続いていく。定年で人生の一つの区切りを迎えても社会との関わりは必要なので、社会の一員として、また老化やぼけの防止のためにも、心機一転、一生懸命に働き、社会と関わっていこうと思う。まだまだ、人生これから。新たな、第二の人生をエンジョイしようと思う。

【お礼の言葉】

消防学校に着任して2年、関係の皆様のご理解と御協力をいただき、ここまでやってこられました。特に、今年度は、コロナ禍の中、消防職員、団員の全教育課程を無事に終了できました。関係の皆様にご改めて厚く御礼申し上げます。また、「消防学校ニュース」を読んでいただき、重ねて御礼申し上げます。4月以降も、もちろん、消防学校の教育訓練も「消防学校ニュース」も続きますので、よろしく御礼申し上げます。私は、定年後も引続き消防関係の仕事に就くこととなりました。皆様、改めまして、御指導、御鞭撻の程、よろしく御礼申し上げます。

新職名：(再任用) 静岡県危機管理部消防保安課参事

今秋に本県にて実施される「緊急消防援助隊全国訓練」の担当で、県庁別館6階におります。



長期間の御愛読
本当にありがとうございました！



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

